

# H27大豆栽培農事メモ(第1号)

平成27年5月15日  
 白山石川営農推進協議会  
 石川県農業共済組合  
 松任市農業協同組合

## 大豆栽培の3大ポイント

収量目標：240kg/10a

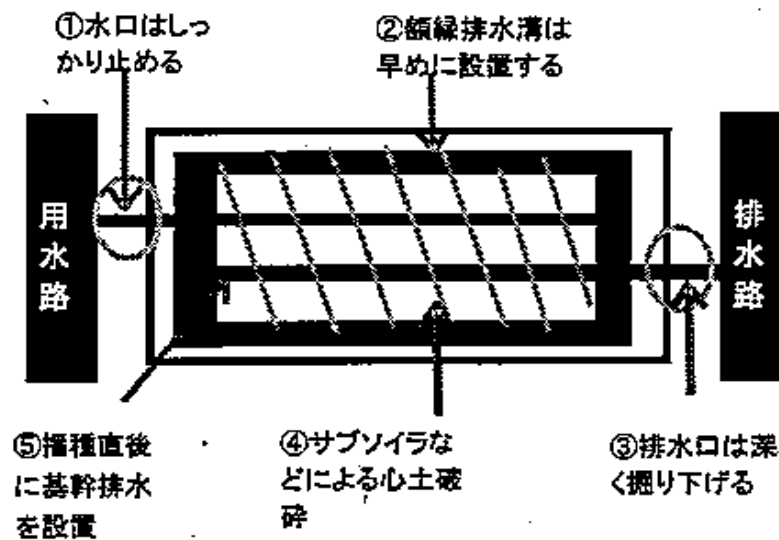
- ①排水対策の徹底
- ②pH 矯正と土づくり  
(地力に応じた施肥)
- ③的確な培土※次号記載



### 1 播種前の条件整備

#### (1)排水対策の徹底

- ①用水等からの漏水による湿害を防ぎ、碎土率を高めるため額縁排水溝を設置する。
  - ②圃場内に数本の縦方向の排水溝を設置し額縁排水溝と連結させ、排水性を高める。
  - ③圃場内に水が溜まりにくくするため、サブソイラーによる心土破砕を行う。
- ※排水性をさらに高め、出芽・苗立ちを安定させるには畝立同時播種機の使用が望ましい。



トレンチャーによる額縁排水溝の設置

#### (2)土壌改良資材の散布

大豆は中性(pH6~6.5)の土壌を好むので、**耕起前に酸度矯正を実施し**、大豆栽培に適した土壌にしておく。

項目	肥料名	施用時期	施用量(kg/10a)
酸度矯正	苦土石灰 または BB転作エース	耕起前	100

#### (3)種子消毒の徹底

播種時から病害虫を防除するため、**種子消毒は必ず実施**する。

薬剤名	適用病害虫名	使用時期	使用量	使用回数
キヒゲン R-2 フロアブル	紫斑病、苗立枯病、ハト、タネバエ、カラス	は種前	乾燥種子 1 kg 当たり 原液 20mL 塗沫	1回
キヒゲン	紫斑病、ハト、タネバエ	は種前	乾燥種子重量の1% (乾燥種子 1 kg 当たり 10g) 粉衣処理	
クルーザーFS30	フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類	は種前	乾燥種子 1 kg 当たり 原液 6mL 塗沫処理	1回
クルーザーMAXX	紫斑病、苗立枯病(ピシウム菌)、茎疫病、黒根腐病、リゾクトニア根腐病、フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類	は種前	乾燥種子 1 kg 当たり 原液 8mL 塗沫処理	1回

#### 「クルーザーMAXX」について

従来のクルーザーFS30と同じ殺虫成分に加え、2つの殺菌成分が配合されています。

殺虫効果と殺菌効果を兼ね備えており、種子処理1回で初期害虫、紫斑病に加え湿害によって助長される土壌病害に効果があります。

裏面もご覧ください

## 2 適正な播種作業の実施

### (1) 耕起・整地

苗立ち、出芽揃いの向上と除草剤の効果を高めるため、**碎土は低速走行・ロータリー高回転で行う。**土塊の大きさは3cm以下、耕起深は13～15cmとする。

### (2) 播種

① **好天日に耕起・播種・覆土を1日で終える**ように努める。

※降雨により土壌水分が高い場合、無理な作業はせず、乾いた状態で実施する。

② 播種の深さは3cm程度とし、深播きはしない。

③ 畝立同時播種機を使用する場合は、低速で行い、畝立てと覆土の精度を高めるとともに、溝の接続を行うこと。

④ ハト害や発芽不良で3株以上欠株が続く場合は追い播きや補植をする。

※追い播きは子葉展開期まで、補植は初生葉展開期までに行う。

⑤ 麦あと圃場での播種は、大麦刈取り後、圃場が乾いたら速やかに行う。



畝立同時播種機

品種	播種時期	目標 栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)	【参考】目皿方式・大粒種子使用・ うね間80cmの場合の調整方法		
				スプロケット		使用目皿
				目皿側	車輪側	
里のほほえみ	6月1日 ～6月5日	15,000	6～7	10	13	B-33
	大麦収穫後 ～6月15日	18,000	7～8	9	14	
エンレイ	5月25日 ～6月5日	12,000	4～5	11	11	
	大麦収穫後 ～6月15日	14,000	5～6	11	13	

### 「里のほほえみ」播種時の留意点

① エンレイより株当たり着莢数が少ないので、**播種量を増やし苗立ち数を多くする。**

また、茎が太くなりすぎるのを防止するためにも苗立ち数は多い方が良い。

② **早播きは過繁茂となりやすく青立ちを助長**するため、適期播種に努める。

③ エンレイより粒径がやや大きいため、**目皿方式の播種機は事前に目皿を交換**する。

## 3 地力に応じた基肥施肥

大豆の作付け回数の多い圃場は、地力が低下している事に留意する。

項目	肥料名	時期	施肥量(kg/10a)	備考
基肥	BB大豆一発くん (19-18-17)	耕起前 または 播種時	40	低地力圃場では、 更に10kg/10aを 全層施肥する。
	BB松任すくすく1号 (10-25-16)		30	
	BBエコ028号 (10-12-8)		30	

※麦あと圃場も、基準どおりの量を施肥してください。

## 4 播種直後の除草剤散布の徹底

不意な降雨で散布時期を逸しないように除草剤散布は播種当日に実施する。

除草剤名	適用 雑草	使用時期	10a 当たり使用量	使用 回数	備考
クリアターン細粒 剤F	一年 生 雑 草	は種直後 (雑草発生前)	4～5 kg	1回	・規定量を守り、 均一に散布する。 ・土が湿っている 状態で散布する。 ・周辺圃場への飛 散や重複散布に 注意する。
クリアターン乳剤			薬量 500～800mL (希釈水量 70～100L)		
エコトップ乳剤		は種後出芽前 (雑草発生前)	薬量 400～600ml (希釈水量 100L)	1回	
クロロIPC		は種後出芽前	薬量 200～300mL (希釈水量 70～100L)	1回	

※エコトップ乳剤＋クロロIPCは重複散布で薬害が生じやすいので特に注意する。



乗用管理機による除草剤散布

農作業事故を未然に防止し、安全運転心がけましょう。



万が一の事故に備えて「労災保険」  
や「傷害共済」に加入しましょう！！